

大石田町議会「行政調査」報告書

議 長	副議長	職	氏 名
			二藤部 冬馬
期 間		出張先	
令和5年6月27日(火)から 令和5年6月29日(木)まで 計3日間		北海道白老郡白老町議会、夕張郡栗山町議会、夕張郡長沼町議会	
用 件			
①通年議会制への取り組みについて(白老町)			
②反問権の取り組みについて(栗山町)			
③ワーケーションを活用した移住政策、関係人口拡大の取り組みについて(長沼町)			
報 告 大 要			
①通年議会制への取り組みについて(白老町)			
<p>年4回の会期制ではなく通年制にすることで、より迅速に町の課題に対して取り組むことや、行政に対してのチェックを行うことができる。一方で、個人の仕事の都合をつけることがより厳しくなり、特に若手や会社員は議員になりにくく、「なり手不足」につながる一面もあるなど、学ばせていただきました。</p>			
②反問権の取り組みについて(栗山町)			
<p>反問権の目的はあくまで「論点の整理」であるが、実際に逸脱した使用の実例など、お話を聞くことができました。「論点の整理」以外の目的で使用されることが無いよう、「運用の指針」等を明文化し、党派を超えて監視していく必要がある。また、少数派や若手が町民目線で質問をすることができなくなる恐れもあり、とくに「なり手不足」に悩む自治体では、改めて反問権は廃止すべきと考えました。</p>			
③ワーケーションを活用した移住政策、関係人口拡大の取り組みについて(長沼町)			
<p>自治体の立地や主要都市との距離などによって、さまざま取組みがあることを学びました。また、人口の減少推移が比較的穏やかではあるが、当町と同じく、町内での雇用の場が課題。今回視察した取組みが、どのように生きてくるのか参考にしたい。</p>			
<p>3町を通して北海道の議員報酬の低さに驚きました。国民の税日負担率は50年前の約2倍。報酬が頭打ちでは、全国的に市民や町民の声を届ける議員のなりて不足が課題です。報酬額については、報酬審議会にかけるなど迅速な見直しが必要であると思いました。</p>			